

- *家庭・地域の教育力を高め、青少年の健全育成に努めよう。
- *審議会等政策決定の場へ女性の参加を促進しよう。
- *循環型社会をめざし、地球環境を守ろう。

県婦連ふくおか

第 59 号

発行
福岡県地域婦人会連絡協議会
〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町13-50
発行責任者 川野 栄美子
TEL 092-643-1440

会長退任挨拶

福岡県地域婦人会連絡協議会

木下 幸子



令和6年度をもって福岡県地域婦人会連絡協議会の会長を退任しました木下でございます。平成6年度から中間市婦人会の会長になると同時に中間市の代表として当会の役員を務めさせて

いただきました。平成15年度と平成16年度の2年間は副会長を務め、平成17年度から会長として20年間、無事に務めることができました。これも一重に会員の皆様をはじめ当会に関わってこられたすべての皆様のご理解、ご協力のお蔭だと思っております。ありがとうございました。

在任中の大きな行事としては、平成23年度と令和元年度に九州地区地域婦人大会（九州大会）を、平成27年度には全国地域婦人団体研究大会（全国大会）を本県で実施し、皆様のご協力により盛会のうちに終了することができました。

令和元年度末には新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、令和2年度は定期総会が例年のような集合開催ではなく書面決議となり、毎月行っている定例委員会も半分は中止となりました。九州地区地域婦人大会（九州人会）や全国女性団体研究大会（全国大会）をはじめ博多どんたく港まつりへのパレード参加、交通安全県民運動への参加、各種研修会等当会が活動するたくさんの事業ができないう状態となりました。更には、これまで2回発行していた広報誌（県婦連ふくおか）も1回発行するのがやっとでした。

過ぎてしまえばあつという間の会長としての20年間でした。就任した平成17年度は平成の大合併の真っただ中で、当会の名称も福岡県市婦人会連絡協議会から現在の名称に変更した年でしたが、各地域の皆様のご尽力により地域の団体数に大きな変動はありませんでした。しかしながら、令和の時代になってからは団体数が毎年減少し、それに伴い会員数も減少していることは、今後の課題であり、心残りの1つでもあります。

最後になりますが、退任後は当会の顧問として、中間市婦人会会長として皆様とともに当会の発展のお手伝いをさせていただきます。会員の皆様をはじめ当会に関わる全ての皆様には、川野新会長のもと、これからも引き続き当会へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、今後とも、各地域の団体が成長・発展すると同時に当会も成長・発展することを心より祈念し、会長退任の挨拶とさせていただきます。

在任中の20年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

会長就任挨拶

福岡県地域婦人会連絡協議会

会長 川野 栄美子



このたび、福岡県地域婦人会連絡協議会の会長を拝命いたしました川野栄美子でございます。伝統ある本会の運営を担うこととなり、身に余る光栄とともに、その責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。

まずはここに、長年にわたり本会の発展にご尽力いただいた木下幸子前会長に、心より深く御礼申し上げます。木下前会長は、その温かい人柄と卓越したリーダーシップをもって、常に会員一人ひとりに寄り添い、思いやりと連帯の精神を大切にされながら、数々の困難を乗り越えられてきました。とりわけ新型コロナウイルスの影響によって地域活動が制限される中でも、婦人会の灯を絶やすことなく、むしろその存在意義を再確認させていただき、改めて敬意と感謝を申し上げます。

今後、私たちは令和10年度に福岡県で開催予定の「九州地区地域婦人大会」という大きな節目を迎えます。この大会を迎えるにあたり、今年度から3つの重点テーマを掲げて活動を進めてまいります。

一つ目は「組織」——時代の変化とともに会員構成や地域のニーズも変わってきております。柔軟な組織体制を構築し、若い世代にも魅力ある組織を目指してまいります。

二つ目は「教育」——学び続けることは、私たち自身の成長であると同時に、地域への貢献にもつながります。

三つ目は「環境」——持続可能な社会の実現に向け、婦人会として何ができるのかを改めて考えてまいります。

この三本の柱を軸に、令和10年度の大会が単なるイベントではなく、これからの地域婦人会の在り方を示す機会となるよう、全力で取り組む所存です。

また、婦人会の使命のひとつに、「男女共同参画社会の推進」があります。

福岡県でも「ふくおか女性いきいき塾」や「女性による地域づくり応援講座」など、女性の社会参加を後押しする事業が展開され、働く女性、子育てをする女性、地域活動に関わる女性それぞれが輝ける環境づくりが少しずつ前進しています。

今、地域社会は大きな転換点にあります。人口減少、孤立化、災害への備え、気候変動への対応。課題は多岐にわたりますが、だからこそ、地域に根ざした私たち婦人会の知恵と行動力が求められています。

私は、これまでの伝統と誇りを大切にしながら、新しい時代にふさわしい活動へと進化させていくことに、力を尽くしてまいります。

どうか今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

副会長退任挨拶

那珂川市婦人会

副会長

池田 穂波



平成21年、福岡県婦連副会長を拝命、16年という年月は、光陰、矢の如し。不慣れな私を大過なく導いて下さった木下会長をはじめ、お世話になった皆様、無事パトントッチができたこと、感謝申し上げます。

毎年、全国各地で開催された大会・研修会では、記念講演、分科会、シンポジウム、アトラクション等々でいただいた学習の成果、人との出会いは尚一層の使命感に燃え、心の泉となりました。特にヒルトン福岡シーホークで開催された第62回全国地域婦人団体研究大会に関われたことは、私の大切な宝物となりました。

これまで学んだことを大きなエネルギーとして豊かな地域づくりを進めていくと共に、那珂川市婦人会運動の指針にしたいと念じています。

たくさんのご協力、ご支援ありがとうございました。皆さまのますますのご健康、ご多幸、そして県婦連のより一層の発展をお祈り申し上げ退任のごあいさつとさせていただきます。

令和7年度 福岡県地域婦人会 連絡協議会総会



藏内県議会議長を 表敬訪問



特別対談

～若い世代の参加と未来への提言～
川野会長 × 川野仁美さん × 八嶋粹さん

左から：川野仁美さん 川野会長 八嶋粹さん

川野会長 今回は、昨年度のリーダー研修に参加されたお二人、川野さんと八嶋さんをお招きして、これからの婦人会について率直な意見を伺えたらと思っています。まずは、お二人がこの会に参加されるようになったきっかけからお話いただけますか？

川野（仁） はい。実は、私の母が婦人会の会員でして、以前から「入ってみたら？」と声をかけられていました。ただ正直、「婦人会」という名前に少し違和感があったんです。私の中では「婦人」という言葉が「既婚の女性」を指すイメージが強く、未婚の自分が入ってもいいものかどうか迷っていました。そんな中で、大川市では会の名称が「女性の会」に変わりました。これは私にとってもとても大きな変化で、「女性の会」なら自分も対象になる気がして、名前が変わったことで、ようやく気持ちよく参加できるようになりました。

八嶋 私はもともと婦人会の存在自体をよく知りませんでした。関東から大木町へ引っ越して、地域の活動に関わるようになり、尊敬している方が婦人会に所属していて、地域のためにいろいろ取り組んでいることを知りました。その姿を見て、「私も何かできることがあるかもしれない」と思ったのが、参加のきっかけです。

川野会長 ありがとうございます。二人とも声をかけられて入会されているのが興味深いです。さて、次にお尋ねしたいのですが、今の婦人会の皆さんはなぜ、ここまで一生懸命活動しておられると思われますか？

川野（仁） まず、「自分がやったことが誰かに喜ばれている」という実感があるからではないでしょうか。その手応えがあるからこそ、活動を続けることができるのだと思います。そしてもう一つ、やはり女性という存在が集団になった時のエネルギーは大きいんですよね。総会で会長が言われたように、世界を見ても70代・80代の会員が多い団体はない。その年代が現役で活躍しているのを見て、私たち若い世代にも「年を重ねても誰かの役に立っている場がある」という希望になります。自分の将来の姿を重ねることができんです。こうしたことを、もっと若い人たちに伝えることができれば、関心を持つ人も増えるのではないかと思います。

八嶋 私も「自分が地域で役に立っている」という感覚が、続けるモチベーションになっているのではないかと思います。特にSNSがなかった時代には、人とつながる手段として地域活動がとても大きな意味を持っていたと思います。そのつながりを大切にしていた方々が、今もその延長線上で頑張っておられるのだと感じます。

川野会長 では婦人会の課題として、会員の高齢化があげられます。若い会員を増やすためには、どんな工夫が必要だと思われますか？

八嶋 心理的なハードルを下げるのが大切だと思います。活動をするにあたり、「家庭や仕事との両立」が出来るのかという不安があります。責任感が強い方ほど、「ちゃんと活動できないと申し訳ない」と思ってしまう。「来られるときだけでいいですよ」「一緒にできるときだけ参加で構いません」といった柔軟な参加形態を明示しておく、ずっと続けられる方も増えるのではないのでしょうか。

川野（仁） やはり子育て世代は忙しいと思うんです。平日は仕事、土日は家庭。その中で婦人会の活動も：となると難しい。でも、オンラインで参加できる形にすればハードルは下がると思います。会議もイベントも、オンラインで自分のタイミングで関われるなら、参加しやすいです。また「お茶会」のような場があると良いと思います。若い世代は子育てなどの悩みを抱えていますし、年配の方々は経験からくるアドバイスをできる。話をすることでお互いに学び合えると思います。年配の方々にとっても、若い人と話す機会は刺激になるはずです。

八嶋 確かに。新しい団体に入る時に不安なのは人間関係です。活動に入る前にお茶会のような場で気軽に話せる関係性があると、安心して一歩を踏み出しやすいですね。

川野会長 本当にそうですね。お茶を飲みながら話す——それが一番自然で、人と人がつながれる方法かもしれません。これはすぐにでも取り入れていきたいと思っています。最後に、私たちへの質問などがあれば、ぜひお願いします。

八嶋 婦人会は今、地域の中でどのような役割を果たしていると感じていらっしゃいますか？

川野会長 この婦人会は「地域」「県」「全国」と三段構えのつながりがある、非常に珍しい団体です。それぞれの階層にリーダーがいて、全国的なネットワークの中で活動が展開されている。これが大きな特徴です。**川野（仁）** これまで活動をされてきた中で、一番うれしかった出来事は何でしょうか？

川野会長 やはり、大川市女性の会70周年の記念事業の成功ですね。会員全員が一つの目標に向かって動き、最後には「よかったね」と心から言い合える。あの一体感、達成感は今でも忘れられません。

八嶋 婦人会には、以前から若い人も多くいたのですか？

川野会長 もちろんです。そもそも婦人会の起源を辿ると、戦時中の国防婦人会にまで遡ります。戦後は地域婦人会として形を変え、福祉や子育て支援などに携わってきました。時代ごとに名前も役割も変えながら、常に「誰かのために」という思いで活動してきた団体です。今もその精神は受け継がれています。お二人のような若い世代の力が、今後の婦人会を支える大きな力になると思います。これからも一緒に、地域の未来をつくっていきましょう！また、総会にも参加して頂きありがとうございます。

研修会報告 **全国の女性に知ってほしい！**
「先進国の少子化・発達障害を防ぐために」
・日時 令和七年六月十一日 総会後
・講師 医学博士 久保田 史郎氏

産婦人科・麻酔科の医師として、これまでに約二万人以上の赤ちゃんを見てきた久保田氏に、現代の女性および出産現場の問題点について講演いただきました。

①冷え性が不妊や発達障害の原因に 冷え性を自覚する女性は七割近くいると言われているが、冷えが引き起こす問題の一つに「生殖機能の低下」がある。一方、冷えは成人女性だけでなく出生直後の赤ちゃんにとっても致命的だという。

②出生直後の赤ちゃんに温めるケアを 多くの分娩室は平均二五度に保たれているが、子宮内の温度は約三八度。結果、赤ちゃんは「低体温ショック」の状態に陥り、発達障害の原因にも繋がるのだそうだ。

③母乳だけでは栄養が足りていない 生後すぐ、お母さんの母乳だけを飲むのでは低血糖症になりやすく人工乳なども必要。実は、昔の「産湯」「乳母」は赤ちゃんを低体温と飢餓から守る重要な役割だった。

今からでも
冷え性対策を！



博多どんたくに参加して

毎年5月3日、4日の2日間、博多の町を賑わす博多どんたく。このパレードに福岡県地域婦人会は、交通安全母の会、女性防火防災クラブの顔として十数年前から参加しております。

私達那珂川市婦人会からは、行政の方々を含め20名前後で毎年参加しています。冷泉公園に集合し市役所横の中央公園までの沿道を囀子を鳴らしながら20分、30分くらいの時間踊りながらのパレードです。沿道には大勢のお客様が大きなかけ声と手を叩いてくれて、何時もその光景に元気をもらっています。会員の皆さんのこの元気はどこから来るんだろうと考えた時に、やはり婦人会で色んな活動に進んで参加し、頭を使い身を動かすことがどんなに大事かと言う事を実感しております。

どんたくパレードも足が動ける間続けたいと思います。



全国女性団体連絡協議会総会
研修会報告 遺贈寄付について

令和7年5月、全国女性団体連絡協議会主催の研修に参加いたしました。今回の研修テーマは「遺贈寄付」についてであり、今後の地域活動や婦人会としての社会貢献の在り方を考える上で、大変有意義な内容でした。

遺贈寄付とは、自身が亡くなった後に、財産の一部または全部を特定の団体や公益法人などに寄付する制度です。これは「生きた証を社会に遺す」という形での貢献であり、近年、注目が高まっています。特にこの10年間で遺贈寄付の実施件数は約2・8倍に増加しており、社会の関心の高さがうかがえました。

寄付の対象は現金に限らず、不動産、株式、宝石など、さまざまな資産が可能であり、寄付の方法も多様化しています。現在、遺言書を活用する方法や信託制度を通じた方法、また公証人を介する手続きなど、安心して実施できる仕組みが整ってきています。

この背景には、少子化による相続人の減少、いわゆる「老老相続」による資産継承の複雑化、そして生前から社会貢献を意識する高齢者が増えているという社会的変化があります。かつては「財産は家族に残すもの」という考え方が一般的でしたが、現在では「自分の意思で社会に役立てたい」と考える方が増えており、遺贈寄付は新たな選択肢として確実に広がりを見せています。

私たち婦人会の活動も、地域福祉や子育て支援、防災、美化運動など、公共的価値を有するものです。今後、遺贈寄付という仕組みが、婦人会活動を支える新たな資金源となる可能性もあると感じました。また、地域の高齢者にこの制度を紹介すること自体が、新たな社会貢献につながると考えます。

今回の研修を通して、命の終わりを迎えるという人生の大切な節目を、未来への贈り物として意味づけられる——そんな考え方が多くの方に広まることを願っています。今後の婦人会の活動においても、このような制度への理解を深め、地域とのつながりの中で活かしていきたいと感じました。

お問い合わせ…具体的な相談や手続きについては、全国女性団体連絡協議会の遺贈寄付担当事務局(TEL・03-3407-4303)まで。(川野)

令和7年全国赤十字大会に参加して

日時 5月12日、13日

福岡空港に10時に集合 空港発11時。JAL310便で羽田12時40分着。

空港内で昼食をとり、バスで上野恩賜公園にある徳川家康をまつる神社・上野東照宮を参拝しました。社殿は権現造りで、唐門・透塀・拝殿・幣殿・本殿からなる国の重要文化財に指定されている豪華絢爛な金と緑と黒を配した建造物でした。外国人の観光客が目立っていました。5年前に参加したときは観光がメインでしたが、毎年出席される方に聞いたところ、昨年から観光もあつたそうです。浅草からお台場海浜公園まで隅田川クルーズを楽しみました。川から東京を見物しました。ベイサイドホテル竹芝アジュールで懇親会があり、宿泊先のホテルグレイスリー田町に泊りました。

翌日は、名誉総裁皇后陛下、副総裁ご臨席のもと、東京・明治神宮会館において全国赤十字大会が開催されました。

社長挨拶に続き、有功章受章者代表(13名)には名誉総裁皇后陛下より感謝状の贈呈がありました。その後、実践活動報告があり、福岡県立大野高等学校の印牧弥音さんが「ふるさとのお助け」水と繊維と「スコーン」〜と題して、ふる里の特産の繊維産業と里いもを生かして東ティモールを支援する活動を発表されました。



最後に、幕末・維新佐賀の八賢人おもてなし隊、佐賀の歴史と誇りを後生に伝える役者ユニットのみなさんによる「良いではないか」という演題で佐野常民と万博の出会いによって生まれた「日本赤十字社の誕生ストーリー」が上演され、とてもわかりやすく感動のうちに閉会しました。

前事務局長 退任挨拶

前事務局長 毛利真郷

盛夏の候、県婦連会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて私は、県教委から、思いもよらぬ依頼を受け、令和5年7月から事務局長を務めていたところですが、令和7年3月31日を持ちまして退任させていただきました。

在職中は、県職員時代には接することのなかった婦人会の様々な活動について学ぶ機会をいただき、自分の視野が広がったように感じました。

この間、県婦連連下会長をはじめ、各地区会長の皆様には大変温かく接していただき、楽しく勤務ができましたことに深く感謝申し上げます。

最後に、皆様方の益々のご健勝とご多幸、県婦連組織のさらなる発展を心より祈念いたします。

新事務局長 就任挨拶

新事務局長 齋藤 正樹

今年度4月から毛利真郷事務局長の後任として就任しました齋藤正樹と申します。不慣れで皆様にご迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

新事務局員 新任挨拶

事務局員 若林 和子

今年度4月から事務局員としてお世話になっております若林和子と申します。長年、県立高校の事務局員として働いてまいりました。60代後半にして、初めての転職で何かと行き届かない点も多いかと存じますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



地域活動

久留米オリリンピックで

そろばん踊り

久留米市女性の会連絡協議会

わたしや久留米の機織り娘よー
化粧ほんのり花ならつぼみよー
『私しやつサイノ久留米の日機織りでございます
モンノ
私がっサイノ日機バ織りますとっサイノ
村の若い衆が来て 遊ぼんのじゃん
遊ぼんのじゃんち云いますモンノ
一緒に遊ぶたあよかバツテン
日機がいつちよん織れまっせんモンノ』
惚れちゃおれどもまだ気がつかんかね

3番までの歌詞とリズムに合わせ、シャンシャン
シャンと上から斜め下、右にシャンシャン左にシャン
シャン。
ソロバンを操る、花のつ
ぼみが、大輪の花を咲かせ
て、久留米陸上競技場を埋
め尽くしました。

飛び入り参加大歓迎です。
次回のオリリンピックには老
若男女、会場にお越しの皆
さま是非とも一緒に。
ソロバンの準備をしてお
待ちしておりますシャン
シャン。



ラブアース・クリーンアップ

2025 in ふくつ

福津市地域婦人会

福岡県一斉海岸清掃と名うって、6月第2日曜日に、
毎年行っています。我々婦人会も、ピンクブルズンを
着、旗持参で参加です。午前9時に市長の挨拶後、海
の空気を吸いながら、小さなプラスチックごみを拾っ
ていきます。

参加会場は5つに分かれていて、私達は福岡海岸で、
夏は海水浴で賑わいます。津屋崎海岸の方は干潟等が
有り海がめの産卵等がある所です。

市庁舎にはうみがめ課があり、何時も見回りをし、
環境作りに気を付けています。

朝、雨が降っていましたが、始まる頃には止んで、
ボランティアには最高の日でした。出来る限り婦人会
としても続けて行きたいと思っています。



第1回料理教室「ヘルシー料理」

筑後市

6月27日（金）北部交流センター（チクロス）にて、
今年度、第1回目の料理教室として、「フレイル予防
料理」をテーマに、市の健康づくり課の吉田さんを講
師に迎え開催した。

はじめに吉田さんから、フレイル予防はバランスの
良い「栄養」と適度な運動で「体力」を維持し、今日
行くところがあるという「社会参加」の3本柱が重要
だというお話を伺った。

そして、今回のメニューはAⅠが教えた、たんぱく
質が豊富な「鶏むね肉と豆のトマト煮」、副菜には吉
田さん指導の、焼き鮭の酢の物とじゃがいものせん切
りを使った「じゃがいもの酢の物」と、優しい味わい
の「レタスのスープ」。デザートに、AⅠが教えた「豆
腐入り胡麻プリン」だった。いずれも材料が手に入り
やすく、家庭でも簡単に作れるフレイル予防になる料
理に、参加した方の感想もなかなか好評だった。



行事予定

- 複十字シール運動開始に伴う知事表敬訪問
令和7年8月7日(木)
福岡県庁
- 結核・呼吸器感染症予防週間 街頭キャンペーン
令和7年9月24日(水)
貴賓館(旧福岡県公会堂)前
- 九州ブロック交通ボランティア等ブロック講習会
令和7年10月6日(月)
佐賀県佐賀市
- 九州地区結核予防婦人団体幹部講習会
令和7年11月10日(月)・11日(火)
佐賀県佐賀市
- 九州八県赤十字大会
令和7年11月13日(木)
鹿児島県鹿児島市
- 全国女性団体研究大会inおきなわ
九州地区地域婦人大会
令和7年11月25日(火)・26日(水)
沖縄県宜野湾市
- 福岡県日赤紺綬会創立65周年記念総会
令和7年11月26日(水)
北九州市
- 九州・沖縄ブロック女性(婦人)防火クラブ
連絡協議会 幹部地域研修会
令和7年12月(予定)
宮崎県
- 全国女性防火クラブ連合会総会
令和8年1月23日(金)
東京都

令和七年度 新役員紹介

福岡県婦連

会長 川野 栄美子
(大川市連合女性会)

副会長 (環境) 古場 弘子
(遠賀町婦人会)

副会長 (組織) 廣石 福子
(三瀬郡大木町女性の会)

福岡地区 (教育)

委員 池田 穂波
(那珂川市婦人会)

ブロック代表 山崎 初音
(筑紫野市地域婦人会)

書記 井手 和子
(福津市地域婦人会)

北筑後地区 (教育)

委員 横溝 敏子
(田主丸町地域婦人会連絡協議会)

会計 江上 昭子
(久留米市女性の会連絡協議会)

南筑後地区 (組織)

委員 藤木 利美子
(柳川市地域婦人会連絡協議会)

地区代表 五十嵐 多喜子
(筑後市連合婦人会)

筑豊地区 (環境)

顧問 木下 幸子
(中間市婦人会)

書記 安河内 浩子
(桂川町婦人会)

委員 石橋 重子
(水巻町婦人会)

地区代表 重松 美津子
(添田町婦人会)

委員 井上 節子
(飯塚市婦人会)

会計監査

監査 福島 ミエ子
(添田町婦人会)

監査 矢野 八重子
(福津市地域婦人会)

編集後記

新役員として今年度は八月発行とさせて頂きま
した。原稿のご協力ありがとうございました。

編集委員

川野栄美子、廣石福子、古場弘子、
江上昭子、安河内浩子、井手和子、
五十嵐多喜子、